

間伐材にキノコ植菌

里山再生を目指す富山市のボランティア支援組織「きんたろう倶楽部」と「富山地区林業研究グループ協議会」は24日、富山市婦中



町大瀬谷で、里山整備体験と雪上森林観察会を開いた。地元住民らがキノコの菌打ちや冬山の散策などを行った。

きんたろう
倶楽部員ら

婦中で里山整備



キノコの菌打ち作業を行う参加者

森林整備や里山再生などの事業に使われる県の「水と緑の森づくり税」を利用して開催。地元住民のほか、きんたろう倶楽部と「とやまの森で森林療法を楽しむ会」の会員ら約五十人が参加した。

キノコの菌を埋め込む原木は長さ約一辺で、約八十本を用意した。昨秋に大瀬谷地区内の山林整備のために切られた木や、カシノナガキクイムシ(カシナガ)の被害に遭ったコナラを活用した。

参加者は電気ドリルで原木に穴を開けてシイタケとナメコの菌を打ち込んだ後、山中に置いた。シイタケとナメコは早ければ今年の秋に収穫され、同地区のイベントなどで利用する。参加者は「キノコの成長が楽しみ」などと話していた。

雪上観察会では、参加者が長靴にかんじきを取り付け、整備した山林を散策。森林インストラクターの説明を受けて、冬の里山を見て回った。